

上杉雅之(監)

99 の Web 動画付

イラストでわかる小児理学療法学演習

評者 米津 亮

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部リハビリテーション学科

小児の理学療法を学ぼうとする学生にとって理解を得るのが難しいことは何か？ それは、「障がい児の特異的な発達」と「障がい児の理学療法のプランニング」に集約されるのではなかろうか。このような学生の悩みに応えた、これまでにありそうでなかった書籍が本書である。その特徴は、各疾患のさまざまな発達過程を動画視聴できる点と臨床場面をイメージしやすいようクリニカルリーzingの構成を行った点にある。

例えば、脳性麻痺が、異常な姿勢・運動を示す疾患群と定義されても、その臨床像は、痙直型やアテトーゼ型の病型、そして片麻痺・両麻痺・四肢麻痺の障害部位により異なる。学生は、このような多種多様な臨床像を、臥位から坐位、立位・歩行と発達段階に応じて整理しなければならない。しかし、実際の障がい児の姿勢・運動を観察できなければ、その理解は難しい。本書は、このような学生の悩みを解決できるよう、ここぞというタイミングで特徴的な姿勢・運動に対する動画視聴が盛り込まれている。そのため、学生が、障がい児の姿勢・運動の特徴について、より明確なイメージをもてるよう「わかりやすさ」、「興味を引き出す」ことに配慮されている。このような動画視聴が、小児領域の重要な疾患である脳性麻痺のみならず、早産・新生児仮死などのリスク児から、ダウン症、デュシャンヌ型筋ジストロフィー、先天性多発性関節拘縮症・二分脊椎などの小児整形疾患、さらには広汎性発達障害までカバーされている。このことは、学生にとって「障がい児の特異的な発達」の理解を深める大きな機会になるであろう。

また、各疾患の臨床像については、まず「症例紹介」という切り口から導入している。そのうえで、「疾患の特徴」、「理学療法評価」、「目標設定」、「目標を阻害する因子」、そして「治療紹介」と問いかける

形で各章を構成している。これは、臨床場面ではじめて対面する障がい児に対し、理学療法士がどのような視点で評価し、何を目標に、どんな理学療法プログラムを立案するかというプロセスそのものである。「障がい児の理学療法のプランニング」について、クリニカルリーzingを意識した構成は、学生の「ポイントを絞った」学びを促すことができる。このことは、臨床実習や難渋な国家試験の実地問題へ対応できる内容でもある。

最後に、もう1つだけ本書の魅力をお伝えしたい。小児の理学療法は他の領域に比べると、観察に基づく主観的な評価に依存しやすい。その一方、脳性麻痺の臨床像に示されるように、姿勢・運動の説明ひとつとっても、病型や障害部位により複雑な運動パターンが観察される。これらの説明を丁寧に行うほど、文字の情報量が多くなる。しかし、本書は多くのイラストや動画視聴で臨床像の説明を補完している。このようなコンパクトにまとめた内容で、学生の「小児の理学療法は難しい」といった先入観を取り除けるよう配慮されている。学生の小児の理学療法の学びを主体的に促せる工夫一杯の書籍ではなかろうか。

B5判・136頁・2色刷
定価：本体3,600円＋税
医歯薬出版刊、2018年